



七中だより

第9号

令和5年1月13日(金)

校長 勝野 能光

夢を行動に 2023

校長 勝野 能光

新年明けましておめでとうございます。令和5年が始まりました。3年生にとっては、中学校生活の締めくくりの年であり、2年生は最上級生になる自覚の年、1年生は上級生になる年です。それぞれがこの一年の目標を持ち、自分でも満足できる年にしてもらいたいと思います。

昔の人達は、夢の吉凶に気を遣い、特に新年に見る夢には縁起を担いだものです。宝船に七福神を描いた絵を枕の下に敷いて寝ると、良い夢を見て縁起の良い年が約束されると言われています。良い夢を見た時は良いのですが、悪い夢を見たときはどうするのでしょうか。昔の人は、このことについて二つの方法を考えました。その一つは、法隆寺の「夢違え観音」にお参りして、悪い夢を報告して、良い夢に変えてもらう。二つ目は、お正月のために生け花として生けてある「南天の木」に自分の見たその悪い夢を語りかけ、この夢の難(南)を転(天)じてくださいと頼みながら、「南天の木」を揺るのだそうです。「一富士、二鷹、三なすび」は初夢に見ると縁起の良い夢の順番を表していると言われています。この由来には、色々な説があります。その中でも、『富士は「無事」、鷹は「高く」、なすびは「事を成す」というように、縁起を担いだ語呂合わせの意味である』という説が、分かりやすい気もします。皆さんには、この一年を「無事」に過ごし、自分自身をより「高め」、めざした事が「達成」できる年になることを祈っています。

昨年の12月から3年生の面接試験練習を行っています。いくつか尋ねる中で「あなたの夢は何ですか」という問いに、「将来は外国で生活したい」「看護師になり人の役に立ちたい」「大学で建築を学びたい」等、様々な答えが返ってきました。この時期は、4月からの自分の進路を具体的に考えることが中心になり、その後の事は、考えにくい時でもありますが、堂々と「夢」を語る姿、そしてその理由もしっかりとしており、感心させられることが多くありました。

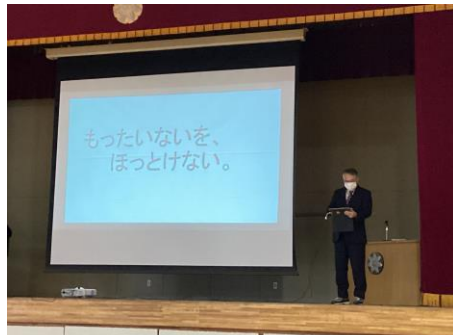
夢を夢で終わらせないための努力が、毎日の生活を充実させてくれます。つまり夢に期日をつけて目標に変え、その目標の達成に向けて計画を立て、努力を始める事です。人は、夢をもち目標を明確にすると頑張れるようにプログラムされているのです。夢や希望をもつという事は、人間に与えられた特権です。大切なことは、常に大きな志をもち、理想を心に描き、実現させるための努力を惜しまない事です。新しい年の初めに見た夢や、今年こそと決意した目標が達成できるよう、しっかりと計画を立てて行動に移して欲しいと思います。

「夢」のある人には「希望」がある
「目標」のある人には「計画」がある
「実行」のある人には「結果」がある
「反省」のある人には「進歩」がある

「希望」のある人には「目標」がある
「計画」のある人には「実行」がある
「結果」のある人には「反省」がある
「進歩」のある人には「夢」がある

3学期の始まりです

1月10日(火)3学期始業式を迎えました。新型コロナウイルスの感染防止の措置を十分に図り、体育館で行いました。校長先生からは学習用タブレット端末を使って、言葉の大切さについての話がありました。続いて、生徒代表の言葉、学園歌合唱・校歌斉唱と進み、最後には生活指導主任の岡田 求主幹教諭から3学期の学校生活の留意事項について話がありました。



生徒代表の言葉

生徒会副会長 形上 日和さん

書記 佐竹 柚子葉さん

2023年、新しい年になり、今日から3学期が始まります。3学期は一番短い学期です。だからこそ、新しい目標を立て時間を無駄にしないように過ごしてみたいと思います。

3学期は学年のまとめ、次の学年への準備の時期とよく言われます。2学期の反省を踏まえ、3学期を過ごし、それぞれが次の学年へと繋げていきましょう。

また、今のクラスで過ごすのも残り3ヶ月を切りました。そして、3年生は卒業も近づいています。悔いのないように、気持ちを切り替えて過ごしていきましょう。

「緑の募金」ご協力ありがとうございました

昨年6月28日(火)～6月30日(木)にかけて生徒会本部役員を中心に「緑の羽根募金活動」として活動

を行いました。下記のとおり、三鷹市都市整備部緑と公園課より、正式な募金集計額のお知らせがありました。今回の活動で集まった募金は、都市の緑化や森林の保護に使用されます。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

集計額 7,129円



青少対羽沢地区ドッジボール大会

12月4日(日)青少対羽沢地区ドッジボール大会が羽沢小学校で行われました。本校からは36名の生徒がボランティアとして参加し審判やチームの招集等のお手伝いをしました。

青少対の委員や羽沢小のPTA等の皆様のご指導のもと熱心に活動しました。大会終了後、七中の生徒のおかげで、競技が速やかに進行できたこと感謝の言葉をいただきました。



第39回マラソン大会

◆個人の部上位入賞者◆

順位	学年	学級	番号	氏名	記録	順位	学年	学級	番号	氏名	記録
1	3	B	28	宮廻 空也	13分 50秒	1	1	C	24	安田 菜菜	13分 38秒
2	3	A	28	若色 蒼空	14分 30秒	2	3	C	17	内藤 百愛	14分 35秒
3	1	A	16	服部 悦司	14分 45秒	3	3	A	19	中村 凜	14分 40秒
4	3	E	7	吉浦幸希ウィリアム	15分 21秒	4	2	A	18	島村 莉乃愛	15分 11秒
5	2	B	25	谷中 庵	15分 26秒	5	3	A	4	岩崎 百恵	15分 23秒
6	1	A	14	寺田 行雲	15分 35秒	6	1	A	8	大西 蓮風	15分 26秒
7	3	A	18	長坂 陽太	15分 36秒	7	2	C	15	齋藤 悠那	15分 32秒
8	3	C	16	友金 佑太	15分 51秒	8	3	C	21	濱田 優梨	15分 39秒
9	2	C	17	高橋 裕次郎	16分 08秒	9	1	A	6	内山 日由里	16分 03秒
10	1	C	2	荒井 秀斗	16分 18秒	10	2	A	16	佐藤 未都	16分 14秒



12月14日(水)マラソン大会を実施しました。(男子3.8km・女子3.2km)実施に当たり、大沢台及び羽沢地区交通安全対策委員会、三鷹市交通安全協会、三鷹市警察署の方々やPTAをはじめとする保護者の皆様には、生徒の安全にご協力いただき、感謝申し上げます。

第24回中学生意見発表会

第24回三鷹市中学生意見発表会がYouTube限定配信で開催され、本校からは2年A組の戸谷 心奏さんが発表しました。以下に全文を掲載します。

「子供のような想像力を」 2年A組 戸谷 心奏

私が読んだ本に「52ヘルツのクジラたち」という本があります。これは自分の人生を家族に搾取されてきた貴湖と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年が出会うことで紡がれていく、新たな魂の物語です。二人が当事者である児童虐待のみならず、家庭内DVやトランスジェンダーなど、近年でこそ社会問題として取り上げられるようになってきているけれど、社会全体からみればまだまだ少数な人は確かに存在しています。世界で一番孤独な「52ヘルツのクジラ」をそうした人に重ね合わせることで、彼らが抱える苦しみや孤独、辛さを「52ヘルツのクジラたち」の中で浮き彫りにしています。この本は、登場人物を通して助けを求める「声」を聞くことの大切さや、善意のあり方について考えさせられるものです。スマートフォンが流通し、「読書離れ」が進む今こそ、私たちが読むべき本だと思います。

私は10代、20代に増加している「読書離れ」について調べてみました。「1ヶ月に何冊くらい本を読むか」という文化庁の問いに「1冊も読まない」と答えた人は、全体の約5割ととても多くなっていることから、近年の「読書離れ」の深刻さがうかがえることでしょう。それは主に、スマートフォンが流通し、動画を中心としたメディアを楽しむ人が増えていることが原因の一つと考えられます。では、「読書離れ」が問題として取り上げられるのはなぜでしょう。

まず、日本語の正しい意味を理解できている人が減少している点です。文化庁による令和2年度「国語に関する世論調査」の中で次のような問いがあります。「がぜん、破天荒などはどちらの意味だと思うか」というものです。どちらも正しい意味で答えた人は全体で約20パーセントととても少なくなっています。また、年代別に結果を見ても、全ての年代で本来の意味とは異なる意味で解答した人は、本来の意味を答えた人を上回っています。中でも40代以下では異なる意味を選択した人の割合と本来の意味を選択した人との割合に50ポイント以上の差があることが目立ちます。

また、読書離れが問題となる2つ目の理由は、想像する力を得るためには読書は必須だからです。SNS等で自分の意見を広く発信できるようになった現在で、自分の発言に他者はどう感じるかを考える力は大切になります。人を傷つけるような言葉や、自分自身の思い込みで他者を否定する言葉を簡単に発信してしまう人は、それを見た人がどのように感じるか想像することができないからだとは私は感じます。だからこそ「52ヘルツのクジラたち」のような作品を読み、人間の喜怒哀楽の感情について、また、自分以外の立場について想像する力を養っていくことが大切だと思います。

ウォルト・ディズニーの名言と呼ばれるものにも次のような言葉があります。「どんな子供も強烈な想像力をもって生まれる。しかし、使わなければ筋肉が衰えるのと同じように、鮮やかな想像力も次第に色あせてしまう」。

私たちは心豊かに生きるために想像することが大切です。生きていく中では、自分の感情や他人の感情と向き合っていかなければなりません。子供のように鮮やかな想像力があれば見える景色は変わっていくと思います。本は想像力を使い、養っていくことができるからこそ、昔からずっとあり続けているのだとは私は思います。「読書離れ」が多い若者こそ読書をするので子供のような想像力を持って育てていく、そうしたら世界は平和になるとは思いませんか。

私は夏休みなどで多いときには1ヶ月に100冊くらいの本を読みます。これからも読書を続け、想像力を養い、心豊かに生きていきたいと思っています。

紙上ビブリオバトル

12月12日(月)図書委員会主催の紙上ビブリオバトルを開催しました。結果は以下のとおりです。ビブリオバトルとは、自分がおもしろいと思う本を他の

の人にプレゼンテーションし、読みたくなった本(チャンプ本)を投票で決める活動です。今回は紙上で行いました。投票の結果、ベスト3に入った本は、以下の通りとなりました。

第1位 3年A組 箕輪 未徠さん「青い鳥」(著:重松 清)

第2位 3年B組 伊藤 煌馬さん「余命99日の僕が死の見える君と出会った話」(著:森田 碧)

第3位 1年A組 平間 心夏さん「君の膵臓を食べたい」(著:住野 よる)

3年A組 箕輪 未徠

「おはようごっ、ごっ、ございます。」先生がこんな挨拶をしたら、みんなクスッと笑うことでしょう。村内先生は中学校の非常勤講師。国語の先生ですが言葉がつかえてうまく話すことができません。でも、先生には、授業よりもっと大事な仕事があるのです。いじめの加害者になってしまった生徒、父親の自殺に苦しむ生徒、気持ちを伝えられずに抱え込む生徒、家族を知らずに育った生徒……言葉をつかえてしまうから、大切な事しか話さない村内先生の思いが生徒の一人ぼっちの心に届いていきます。青い鳥は幸福の象徴と言われます。重松清さんの「青い鳥」。ぜひ読んでみてください。

3年B組 伊藤 煌馬

私が紹介する本は、森田碧(あお)さん作「余命99日の僕が死の見える君と出会った話」です。この本は余命99日以下の人がわかる主人公新太と親友の和也の二人が、同時に余命がわかるころから始まる切なく、命の尊さが描かれた感動ストーリーです。私はこの本から、自分の行動により運命は変わるという考えになりました。そして、毎日全力で生活し、悔いの残らない一日を意識するようになりました。この本の中で「運命を受け入れる」と「運命にあらがう」という二択を新太に迫るという場面があります。皆さんならば、どちらを選びますか?この本を読み、「運命」について自分なりの結論を考えてみてください。

1年A組 平間 心夏

皆さんは実写映画化した小説「君の膵臓を食べたい」を見たこと、あるいは聞いたことがあるでしょうか?この本は他人に興味のない主人公が、病院の待合室で偶然「共病文庫」というタイトルの文庫本を見つけるところから始まります。それはクラスメイトの山内桜良が描いていた日記帳であり、そこには彼女の余命が膵臓の病気のためもう長くはないことが記されていました。桜良の秘密を知ってしまった主人公は彼女と過ごしていくうちに、一日一日を生きることの大切さなどに気がついていきます。

私はこの本を読み、余命とは何か、命の大切さとは何かについてとても深く考えることができました。読み終わった後、この本のタイトル「君の膵臓を食べたい」の意味に感動すること間違いありません。皆さんもぜひ住野よるさんのこの1冊を読んでみてはどうでしょうか。

《2月の主な行事予定》

- 2/1(水) 学園研 ⑤カット
- 2(木) 安全指導 都立推薦入試発表
- 3(金) 専門委員会
- 6(月) 全校朝礼
- 7(火) 中央委員会
- 8(水) 鷹教研 ②カット
- 10(金) 私立一般入試 3年⑤⑥カット
- 17(金) 避難訓練
- 21(火) 都立一次入試 3年⑤⑥カット
- 24(金) 第4回定期考査
(社・国・音) 給食なし
- 27(月) 第4回定期考査
(数・理・美) 給食なし
- 28(火) 第4回定期考査
(英・技家・保体) 給食なし
E組校外学習

※新型コロナウイルスの感染状況により、予定が変更になることもあります。



左記の二次元コードから本校のホームページをご覧ください。



<https://www.mitaka-schools.jp/nanachu-jhs/index.html>